

凹凸が音を乱反射させ、豊かな響きを生む



Live

『拡散 -Diffusion-』

Dead

『吸収 -Absorption-』

隙間が音を吸い込み、雑音を削減



30cm 角パネルによる吸音効果の説明

必要な面積の目安は、壁面の「15～20%」

部屋全体の壁を埋め尽くす必要はありません。

一般的に、部屋の壁面積の 15%～20% に吸音材を配置するだけで、フラッターエコーや音の濁りの改善が期待されています。

例：6 畳間の壁一面が約 10 m² の場合、30cm 角のパネルを 15～20 枚程度分散して配置する比率。

「点」ではなく「面」で捉える一次反射

音は光のように壁で跳ね返ります。

スピーカーや話し手から発せられた音が、最初に壁に当たる場所（一次反射点）に 30cm 角のパネルを配置することで、エネルギーの拡散と吸収を効率的に行えます。

吸音と拡散のハイブリッド効果

木製パネルの場合、表面の凹凸や素材の隙間も重要です。

30cm 角というサイズをランダムに配置することで、音が一点に集中して跳ね返るのを防ぎ、自然な音場を作り出す効果が期待できます。

マグネットパネルによる空間に合わせたミリ単位での位置調整が可能

全面を塞いで音を殺す（無響室）のではなく、30cm 角のパネルを戦略的に配置することで『心地よい明瞭さ』に調整するのがこのパネルの魅力です。

耳の高さに合わせて（床 100～150cm 付近）に重点的に配置するのが最も効率的。

隙間を空けて貼ることで、木の「エッジ部分」でも音の減衰が期待できデザイン性と性能を両立。

「面積（量）よりも配置（質）」

面積の目安は「引き算」で考える。

理想的な響きを作るには、壁面積の 80% 程度は「反射面」として残しておくのが一般的です。

吸音：15～20% を天然の木面で覆い、余計な反響を抑える。

反響：残りの 80% の壁で音を響かせ鏡面木の凹凸で音を「散らす」ことで美しい余韻を作ります。

「反射」ではなく「拡散」を目指す

単なる平らな壁は、音がそのまま跳ね返る「鏡面反射」を起こしエコーの原因になります。

30cm 角のマグネット木スクウェアは、音を消すことではなく音をバラバラの方向に乱反射させる「拡散（ディフュージョン）」を壁に創り出すことを目的としたマグネットスクウェアです。

反射音は「複雑な散乱音」に変わり、同じ面積でも「ただの壁」より音が柔らかく空間を広く感じられるような雰囲気を与えてくれます。

壁一面を埋める必要はありません。

音源の対面側の壁に木パネルを数枚配置するだけで、平行面での音の往復が遮断され、音の質が楽器のような『心地よい余韻』に感じる環境にします。

バイオリンやピアノのように、木は「音を奏でる」ための最良の素材です
木が持つ調音の力で、壁を「楽器」に変えてみませんか？

注意：

このパネルは音を完全に吸い込むのではなく、木材の特性を活かして適度に反射・拡散させ自然で立体的な音響空間に調整するパネルです。

※音を消す（吸音する）ことではなく、音を整える（拡散）という「調音」という考え方。

「30cm」のサイズは、このバランスを微調整するのに適したユニットサイズなのです。

